

広島市感染症週報

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター

コメント

1 手足口病

定点当たり5.71人の報告があり、増加傾向です。口の中の粘膜や手足などに水疱性の発疹がでるウイルス性の疾患で、乳幼児を中心に、夏季に流行がみられます。感染経路は、飛沫感染、接触感染、糞口感染で、回復後も2～4週間程度、便中にウイルスが排泄されます。手洗いの励行、オムツの適切な処理など、感染予防対策を心がけましょう。

2 ヘルパンギーナ

定点当たり1.86人と、多い状況です。手洗いの励行、オムツの適切な処理など、感染予防対策を心がけましょう。

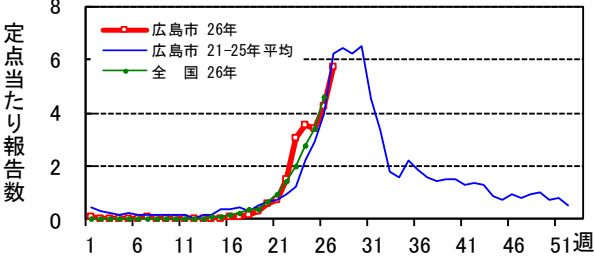
3 感染性胃腸炎

定点当たり5.90人の報告があり、前週と比べて増加しました。感染予防のため、便・吐物は適切に処理しましょう。また、トイレの後、便・吐物を処理した後、調理の前、食事の前など、せっけんと流水でこまめに手を洗いましょう。

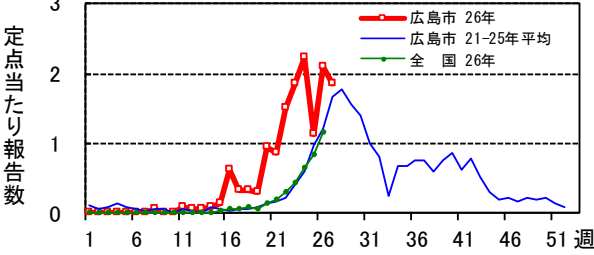
4 腸管出血性大腸菌感染症

2件の報告がありました。今年の累計は32件となり、昨年の年間報告数(31件)を上回りました。(次ページ参照)

手足口病の流行状況



ヘルパンギーナの流行状況



定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注)	発生記号
ARI	急性呼吸器感染症(ARI)	1897	55.79		⇒	小児科	突発性発しん	4	0.19	0.26	
	インフルエンザ	7	0.21	0.20			ヘルパンギーナ	39	1.86	1.67	⇐
	新型コロナウイルス(COVID-19)	9	0.26				流行性耳下腺炎	-	-	0.05	
小児科	RSウイルス感染症	5	0.24	2.03		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	咽頭結膜熱	6	0.29	0.49			流行性角結膜炎	5	0.63	0.60	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	49	2.33	1.67	⇒	基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	124	5.90	4.57	⇐		無菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	水痘	5	0.24	0.11	↓		マイコプラズマ肺炎	1	0.17	0.71	
	手足口病	120	5.71	6.19	⇐		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	1	0.05	0.87			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.03	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

急性呼吸器感染症(ARI)定点数(内科・小児科)	34
小児科定点数	21
眼科定点数	8
基幹定点数	6

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	69	20歳代、90歳代
3	腸管出血性大腸菌感染症	2	32	20歳代・O26、20歳代・O血清群不明
4	レジオネラ症	1	12	60歳代
5	梅毒	4	58	20歳代・1人、40歳代・2人、50歳代・1人
5	破傷風	1	2	80歳代

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

		急性呼吸器感染症 (ARI)	インフルエンザ	新型コロナウイルス (COVID-19)	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎
報告数	広島市	第23週	1,902	-	16	11	4	51	84	12	64	1	6	39	1	-	5	-	1	-	1	-
		第24週	1,763	-	9	13	10	35	100	7	74	3	7	47	3	-	2	-	1	-	-	-
		第25週	1,859	-	11	13	17	42	93	4	72	-	7	24	-	-	-	-	1	-	-	-
		第26週	1,779	-	11	6	14	53	103	18	90	1	4	44	-	-	2	-	2	-	-	-
		第27週	1,897	7	9	5	6	49	124	5	120	1	4	39	-	-	5	-	1	-	-	-
定点当たり	広島市	第23週	55.94	-	0.47	0.52	0.19	2.43	4.00	0.57	3.05	0.05	0.29	1.86	0.05	-	0.63	-	0.17	-	0.17	-
		第24週	51.85	-	0.26	0.62	0.48	1.67	4.76	0.33	3.52	0.14	0.33	2.24	0.14	-	0.25	-	0.17	-	-	-
		第25週	54.68	-	0.32	0.62	0.81	2.00	4.43	0.19	3.43	-	0.33	1.14	-	-	-	-	0.17	-	-	-
		第26週	52.32	-	0.32	0.29	0.67	2.52	4.90	0.86	4.29	0.05	0.19	2.10	-	-	0.25	-	0.33	-	-	-
		第27週	55.79	0.21	0.26	0.24	0.29	2.33	5.90	0.24	5.71	0.05	0.19	1.86	-	-	0.63	-	0.17	-	-	-
全国		第25週	48.67	0.07	0.85	0.39	0.60	2.46	4.81	0.35	3.38	0.06	0.36	0.85	0.05	0.01	0.44	0.02	0.04	0.25	0.01	0.02
		第26週	47.47	0.08	1.08	0.34	0.54	2.25	4.60	0.42	4.61	0.06	0.34	1.15	0.05	0.01	0.44	0.01	0.04	0.22	0.01	0.03

■ 新たに判明した病原体検出状況 感染症発生動向調査に基づく病原体定点医療機関からの搬入分(ARI分を除く)のみ掲載

診断名	主症状	年齢	発症年月日	検査材料	検出病原体
感染性胃腸炎	発熱(38.0℃) 上気道炎 鼻水 嘔吐 下痢 咳嗽	1	2026/04/28	糞便	ハレコウイルス1型

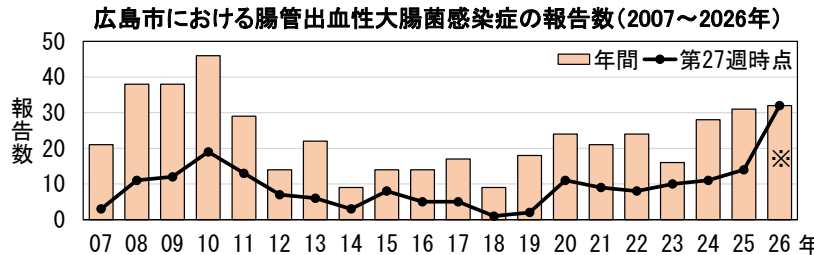
(検査: 広島市衛生研究所)

■ 病原体検出状況 (ARIサーベイランス) 感染症発生動向調査に基づくARI病原体定点医療機関からの搬入分のみ掲載

検体採取週	検査検体数	陽性検体数*	インフルエンザウイルス A H3	インフルエンザウイルス B型インフルエンザウイルス (ピクトリア系統)	インフルエンザウイルス B型インフルエンザウイルス (山形系統)	新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)	A型RSウイルス	B型RSウイルス	ヒトメタニューモ ウイルス	パラインフルエンザ ウイルス1型	パラインフルエンザ ウイルス2型	パラインフルエンザ ウイルス3型	パラインフルエンザ ウイルス4型	ライノウイルス	エンテロウイルス	アデノウイルス
第22週	16	10							3		1			2	4	2
第23週	15	12				2		1	2					6		5
第24週	13	8							2	1		1		2	1	2
第25週	14	8							3	1		1		3	4	1
第26週	15	11				1			1	3		3		3	2	3

* 同一検体からの複数ウイルス検出例を含む (検査: 広島市衛生研究所) 詳しくはホームページで [広島市 病原体](#) [検索](#)

【参考】腸管出血性大腸菌感染症の発生動向 ※2026年第27週現在



腸管出血性大腸菌感染症の年間報告数は2023年以降増加が続いています。
今年の累積報告数は第27週時点で32件と、直近20年間の同時期で最多となりました。
感染予防のため、加熱が必要な食品は十分に加熱し、生野菜は十分に洗いましょう。
また、調理の前、食事の前、トイレの後などは、せっけんと流水で手を洗いましょう。

お知らせ

広島市感染症発生動向調査事業報告書 第43号(令和6年)をホームページに掲載しました。
下記ホームページからご覧ください。
広島市感染症発生動向調査事業(広島市) <https://www.city.hiroshima.lg.jp/living/eisei/1003071/1011229.html>
【事業報告書に関する問い合わせ先】 健康福祉局保健部健康推進課保健予防係(電話:082-504-2882)



本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/living/eisei/1003071/index.html>



【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp